

第2回 栗東市地域福祉計画委員会 要点録

(2025年3月14日作成)

1	会議の名称	栗東市地域福祉計画委員会ならびに栗東市地域福祉活動計画委員会		
2	会議の開催日時	2025年3月14日(金) 午後1時半～3時半		
3	会議の開催場所	栗東市役所危機管理センター 大研修室	公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・一部不可・不可
4	事務局(担当課)	社会福祉課	傍聴者数	0名
5	非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む。)の場合)			
6	協議事項	(1) 「第4期栗東市地域福祉計画」に係る令和6年度事業計画の1月末時点進捗管理 (2) 「第4期栗東市地域福祉活動計画」に係る令和6年度事業計画の1月末時点進捗管理 (3) グループワーク		
7	審議等の内容	別紙のとおり		

栗東市地域福祉計画委員会ならびに栗東市地域福祉活動計画委員会要点録

2025年3月14日（金）開催

開 会

事務局（栗東市）

定刻になりましたので、栗東市地域福祉計画委員会ならびに栗東市地域福祉活動計画委員会を開催します。開催にあたりまして、市民憲章を唱和します。

（市民憲章唱和）

事務局（栗東市）

それでは開会にあたりまして、市長に代わりまして、事務局を代表して社会福祉法人 栗東市社会福祉協議会 会長 平田 善之 様よりご挨拶申し上げます。

（あいさつ）

事務局（栗東市）

本日の進め方ではありますが、2部構成とさせていただきたいと思います。まず第1部は報告事項を説明させていただきます。地域福祉計画と地域福祉活動計画について今年度1月末時点の進捗を報告させていただきます。計画の報告に関しましては、それぞれの委員長様に議事進行をお願いしたいと思います。

その後、第2部として皆様方からご意見を頂きたいと思います。皆様方は常日頃から市内において様々なお立場で地域福祉に関わって頂いている方ばかりであります。そのような皆様の多様なご意見を頂くため、通常の会議形式ではなく、少人数のグループに分かれてご意見を交換していただく方式、グループワークを取り入れたいと思います。活発なご意見を頂き、全員で共有することで第4期地域福祉計画の重点プログラムである“制度の狭間を生み出さない包括的な支援体制の構築”と“市民の地域福祉への参画促進と人材の育成”を実現するために、有意義なものとしていきたいのでご協力をお願いいたします。

公開について

事務局（栗東市）

本日の委員会につきましては、19名の委員のうち12名の委員が出席しており、本委員会が成立していることを報告します。加えまして、当会の開会にあたりまして3点ご確認をお願いします。

1点目でございます。

本日の資料を確認します。（順番に確認）

2点目です。本市では「栗東市附属機関等の会議の公開に関する要領」において会議は基本的に公開となっております。ただし、内容によって非公開に該当する事項がある場合は協議により公開・非公開の決定をいただきます。会議を非公開とするのは主として個人情報や財産の保護、事業の意思形成過程にあるため公開にすることで支障が生じる場合などです。この委員会においてはそのような理由に該当する事項がありませんので基本的に公開するものと考えられます。また議事録においても同様です。

つきましては、この会議の公開とすることについてお決めいただきたいと思います。

この委員会を公開としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

ご異議等ないようですので、本委員会を公開といたします。

なお、本日は公開に伴い傍聴を希望される方はおられませんでしたので、ご報告申し上げます。

(1) - ① 第4期栗東市地域福祉計画に係る令和6年度事業計画の1月末時点の進捗管理について

村田委員長

協議事項の(1) - ①について、事務局より説明をお願いします。

事務局(栗東市)

(資料1に沿って説明)

村田委員長

ただ今の説明について、ご意見やご質問はございませんか。

委員

約640項目もわたるボリュームの中で該当なしが多く見受けられます。これは、市としてやると決めた項目で職員の不足などで取り組めていないのか、どういう理由で「該当なし」が多くなっているのか教えてください。

事務局(栗東市)

各担当課に全ての地域福祉計画記載の項目を照会し、担当課以外の項目も含めて回答をもらったのでその部分で「該当なし」が多くなっています。その項目について、どこか担当課がありその課が取り組んでいますので市として項目に記載のところが取り組めていないわけではないです。

村田委員長

17ページはほぼ該当なしになっていますが、確かにこれは見せ方の問題であるとおもいます。ただ、地域福祉計画の1つの目的が、担当課の繋がりが必要なことを意識してもらうこともあり、補完関係、重複する部分や、全く今まで関係ないと思っていたこと他部署と一緒に取り組めることに気付けるように意識してもらうということもあります。たくさんの事を、複数の部署にわたって1つ地域福祉を推進していくための1つの意識付けの様などころがあるので、そのあたりの要因で「該当なし」が多くなり取り組めていないと、思われることもあると思います。

事務局(栗東市)

ご指摘いただいた内容も、この資料の作成の部分では、確かに整理の仕方を今後課題として受けとめさせていただいております。

委員長がおっしゃいますように、「「該当なし」という理解でいいのか？」という部分については、組織全体の課題に関わる場所です。第四期地域福祉計画の中で、関わりがあるとされている分野ですので、該当を探すぐらいの心構えで、各所属に今後働きかけていって、この項目に、書けるような意識付けをし、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

委員

210番の項目で、例えば庁内の体制を構築したということで、その結果、今言ったような問題に対する何らかの庁内での、人事の機構を作られたのか、それが例えば推進体制について庁内体制推進会議で何をしたのか、もう少し詳しくご説明いただきたいと思います。

事務局（栗東市）

庁内体制推進会議のことでご説明させていただきます。今年度、重層的支援推進事業が始まりまして、まず、この重層的支援推進事業の庁内向けの事業周知を図ることや、「こんな事をこんなことやってますよ」とか、「こんな成果がありましたとか」、そういった取り組み状況のご報告をさせていただきます。

その中で支援者に対して、アンケートを行い、良かったことや悪かったことを伺い、来年度の重層的支援推進事業の展開の仕方について話し合いました。

委員

関連で追加質問があります。その推進会議を設けられてやっているというのは大変いいことだと思いますが、この推進会議は、庁内全体に行動を求めていくという権能を有しているという理解で良いですか？

つまり、調整役として、推進会議で決めたことを、あまねく各セクションに展開していくという意味で理解して良いですか？

事務局（栗東市）

この推進会議を今年度から、開催するにあたり非常に気にかけてのが、「ケースをいかに会議にかけていくかという部分」であり、非常に重要な部分でした。

実際、いろんなケースに対して重層的な支援をするということで、他分野の他所属、民間の方も含めて、会議の中で検討する際に、守秘義務の問題があります。

それを、今回、この重層的支援推進体制の中で、支援者支援会議を作りました。この会議は社会福祉法に記載をされている会議体で、「支援者間で支援会議を開いて、多分野の方々が、縦割りと言われる制度を超え、制度の狭間をいかに埋めるか」と、いうことで始めた会議です。そういう意味では委員がご指摘のような、他分野と連携を図っていますが、実は課題も存在しています。

検討会のメンバーが、集まって、組織自体の反省や課題整理もさせていただいたところも踏まえ、来年度に向けて、もう少し改善をしながら進めていきたいと考えているところです。

委員

NO. 533の送迎ボランティアの検討について、どうされたのか教えてください。

事務局（栗東市）

この事業につきましては栗東市の社会福祉協議会の方に委託をしている学習支援事業です。

その中で、いろんなスタッフとか募集をしているということで考えているんですが、現状、他の事業でも募集していますが、応募が一切ないと聞いております。

その中で既存の、他の事業所さんとか、或いはその地域のボランティアの方などで対応している

現状である聞いています。

村田委員長

次年度に向けて、ボランティアの等々も送迎に関して何か考えていることはありますか？

委員

基本的に学校単位で、学習することができる場所であれば、歩いてでも行けると思うんですけど、時間的なところで、夜間、夕方、或いは土日で遠くであると送迎の問題があり、通学するには課題があると思います。

だから、基本的にやはり何らかの形で送迎というものが、必要であると考えています。

それは具体的にどのような形で項目を展開するかについては課題であると思いますので、それを順番に検討していただきたいと思っています。

村田委員長

そのことに対して今ここで、すぐにこうしますという答えはないと思います。

事務局（栗東市）

今、ご質問の学習支援事業ですが葉山東と治田西の2ヶ所、中学校区で言うと、3ヶ所のうちの2ヶ所あります。

おっしゃるように、各小学校区にあるのが理想ですが、2ヶ所で平成27年度からこの事業をスタートしています。その状況で今に至っていると少しずつ参加者が広がる中で、遠方からも行きたいという子供さんもいると聞いておりますので、子供さんをいかに送迎していくか、また、場所という部分も、増やしていく事が必要で、当然、検討をしています。

ボランティアの方々は、学習支援の指導員さんが、ほぼ好意でしていただいているというところに、甘えている部分はありますが、安全の部分もありますので、今後は送迎の在り方や、送迎に頼らない、会場の場所の確保も併せて検討していく必要があるということ、社会福祉協議会と一緒に共同でやっている事業でもあるので、一緒に考えていきたいと思っています。引き続き、取り組んでいきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

委員

今、市は「ひきこもり」に大変、力を入れていると聞いていますが、研修5名というのは人数が少ないと思います。また、人材養成研修の中身と参加した人数について教えてください。

事務局（栗東市）

12月のひきこもりに関する講演会につきましては、市内の住民を対象に、事例に取りかかるところで開催をしていただきまして、もう少し参加人数があると考えていましたが、なかなか周知が十分ではなかったことや日程の点などで、反省をしています。

この講演会につきましては拡充をして、令和7年度も引き続きやっていきます。

ひきこもりの研修ですが、東京まで職員1名、参加し、多団体の方と対面でひきこもりに関する情報の交換や、事例研究などを行うなど、大変成果がありました。

また、他の職員も他市の方とZoomを通じて、ひきこもりの事例などをいろいろ勉強させていただき成果がありました。

村田委員長

続きまして、協議事項(1) - ②「第3次栗東市地域福祉活動計画」に係る令和6年度事業計画の1月末時点進捗管理に入ります。

(1) - ② ②「第3次栗東市地域福祉活動計画」に係る令和6年度事業計画の1月末時点進捗管理について

事務局（社協）

説明させていただきます。

資料2：「第3次地域福祉活動計画 令和6年度進行表」

資料3：「第3次地域福祉活動計画 令和6年度進行表 ピックアップ版」

別配布：フードドライブに関するチラシ

(資料3に沿って説明)

岡野委員長

ただいま、社協事務局より計画の説明がありました。委員の皆様から何かご意見やご質問ありますでしょうか？

委員

AからDの項目までたくさんをやっておられて、大変素晴らしいことだと思いますが、特にBの項目に注目したいと思います。このBの項目は、「同じ悩みとか思いを持つ人たちと繋がりや、退職世代の方々に対する～」ということもありまして、いろんな活動を年間で、取り組んでこられたということはわかります。

例えば、栗東市には、100歳大学などで学んでおられる方々は意識も高く、学んだことを何らかの形で地域に取りこむことをやっていると思います。また、他にも地域の中で、自分の思っていることを、何らかの形で実行しているような意識の高い方々がたくさんおられます。また、それ以外には、県のレイカディア大学もあり、卒業生もたくさんおられ、100歳大学も卒業生もたくさんおられて、そういった人たちの活用は、特に連携という意味で、今まで何らかの形で呼びかけなどはしてこられましたか？

事務局（社協）

ありがとうございます。レイカディア大学や100歳大学の方々、ボランティア市民活動センターがあり、その方々の中で特に今探しているのが、いきいきポイント事業の中でお一人暮らしの方に対するごみ出しボランティアです。

近くでないと一緒に行けない方もおられますので、そういう方を対象に、100歳大学に通うなど、もともと意識が高く活動を希望されていると思う方に声掛けをして、何件か繋がったという実績があります。

委員

関連しますが、できれば、今年も何らかの形で、そのような組織にも、様々な形で活動をやっておられますので、積極的にもっと呼びかけていただきたいと思います。

また、もちろん、それに所属されてる方々だけではなくて、退職をしたOBの方の中には、非常にスキルを持った方々も、市内にたくさんいらっしゃるのので、そういった方を、なかなか掘り起こすのは大変だと思いますが、見つけていただいてその人々の力を生かしていくということが大事であると思いますので、よろしくお願いします。

事務局（社協）

はい、ありがとうございます。もう1点100歳大学のアドバイザーとして職員が入り、そこでいろんな意見聞いてくると思っていますので、みんなで共有したいと思っております。

岡野委員長

様々な関係機関で情報の共有をしていくことが大切だと思います。

他市ではこれからの活動はある意味、繋がりを強めるという意味でも、デジタルサポーターといいますが、これからいろんな活動や組織に、1つの役職としてそのデジタルを専門とする人たちも作っていく必要があるのので、その人を養成していこうという「サポーター養成講座」などを作っていこうとする動きがあるということを紹介させていただきます。

委員

Bなんですけども、成果と課題というところで、産業界や企業との繋がり、これが課題っていうふうなことで挙げておられますが、具体的にもう少し、説明していただきたいと思います。繋がりが薄いというかまだまだであるという意味ですか？

事務局（社協）

はい、ありがとうございます。今年、何件か企業と繋がりが出来てきましたが、社会福祉協議会も賛助会員様というのがおられまして、会費をいただいている賛助会員との繋がりというのが、やっぱりまだできてないという現状と、今後、繋がっていったらなという思いを課題に挙げさせていただきました。

委員

その思いを伝えるために、今、施策を考えておられますか？

事務局（社協）

他の企業さんからこう繋がっていくとか、何かいい方法があると思いますので、何か良い情報がありましたら教えてください。

委員

わかりました。

岡野委員長

地域の商工会議所さんは、これから人口が減少していくなかで、生き残っていくために一生懸命に考えておられますし、そういったところからも情報を得るなど協力関係ができればいいかなと思います。

岡野委員長

他に、ご意見等ないようですので、進行を村田委員長にお返しします。

村田委員長

以上をもって協議事項（２）を終了させていただきます。では議事進行を一旦、社会福祉課へお返しします。

事務局

第１部進行については、村田委員長様、岡野委員長様ありがとうございました。では、ここからは第２部の意見交換に移りたいと思います。会議の冒頭でも説明いたしましたように、本日はグループを作ってその中でご意見を交換していただきたいと思っています。休憩の間に職員が座席を動かしますので誠に恐縮ですが荷物を持って席の移動をお願いしたいと思います。

それでは１０分間の休憩をはさみグループワークに移りたいと思います。

再開予定時間は １４時 ３０分（１０分程度）とさせていただきます。

グループワーク分けについては、ネームプレートにグループ番号を記載してあります。

《休憩》



(3) グループワーク

テーマ：『居場所マップづくりとその拠点でできそうな取組』



○【Aグループ】

●委員より意見がでた居場所として活用できそうな所

- ・草の根広場
- ・各小学校
- ・各中学校
- ・各幼稚園（幼児園）
- ・ワイナリー
- ・各お寺
- ・各神社

●栗東市の居場所でやってみたい活動。

- ・休耕田を使ってひまわり畑を作り、観光資源とする。
- ・夏祭り
- ・ワイナリーで利き酒、ぶどう狩り
- ・お寺や神社等でのコンサート等のイベント
- ・カラオケ大会、将棋大会
- ・並木の桜の鑑賞会



○【Bグループ】

●委員より意見がでた居場所として活用できそうな所

- ・喫茶店
- ・民間企業の託児所
- ・神社の境内
- ・市内グランドゴルフ場

●栗東市の居場所でやってみたい活動

【市南部】

- ・健康運動公園にみんなで集える一定のスペースを作り、居場所とする。
- ・森の未来館などを工夫してみんなが楽しめる場所にする。
- ・お米、野菜などの野菜作り。

【市北部】

- ・コミセンの活動、児童公園、児童館に高齢者も活用できるスペースを作る。
- ・神社、お寺のスペースを上手く使う。
- ・民間企業の託児所を居場所として活用する。



村田委員長

それぞれの話をしていただいていると、いろんな楽しそうで良いと思うような雰囲気伝わってきました。できるできないの話は別にして、助成金の活用であるとか具体的な話も、ステップアップをしながら具現化していくのが地域福祉であると思います。是非、話をいろんなところでいただきたいと思います。

さて、時間的に終わりが近づいてきましたので、今のグループワークについて講評を岡野先生にいただきたいと思います。

岡野委員長

お疲れ様でした。

講評というようなことが十分できるわけではありませんけれども、やっぱり栗東市には、よく見ると、社会資源という居場所ができる条件があるところがたくさんあるんだと思います。

公立や民間、寺社仏閣みたいなので、いろんな活動が取り組まれてるっていうことが、改めて認識できました。

居場所と考えた場合、私が思う大切なことは、そこで行きたいと思えることで、それはできるだけ多くの方が、行きたい、行ってみたいと思える気持ちだと思います。

それがいつの間にか、広がっていけば居場所になります。

また、居場所に変えていくということがあると思います。今のお話を伺い、例えば、お花をたくさん植えて、人が集まるような工夫をしてみようというようなことも、そうだと思います。

他に、体操をするであるとか、誰もが比較的集まりやすいのが、ごみ拾いの企画です。初めて人やシニアの人、若い人も、若い親も含め、ある一定の地域を決めて、ごみ拾いということだと、比較的気軽に人が集まります。

その中でこういう居場所ができた、ということですね。

居場所がある中、文化があるからそこで何かするというよりも、こう行ってみたいという気持ちをみんなが持てるようにすること大切かなと思いました。

例えば、私が住んでいる町の話で面白い事例があります。

ひきこもりの若者の家族の会があり、「ジャンボたにし取り」を農業団体から依頼されて、やっていることに驚きました。

このように思わぬことが、いろんな他の業種の方々といろいろマッチングみたいなことができる面白いなと思います。

居場所に通っている方で、その方は私がよく関わっている方ですが、ひきこもりの方でボランティア活動センターの広報誌の発送作業に、限定1時間だけですが、2人、前から来ています。

しかし、1時間以上の活動はしんどいので、1時間だけ来て、帰るというようなことをしています。それで十分かなと思います。

日頃の家の中でひきこもりの方が、そういう仕事があるからということで、時間が限定されていますが、外に出てこられる。

そんなことも可能性があるかと思い、皆さん方はいろんな、今のお話をお伺いしていると、地域の事情ご存じですので、「いろんなところが、繋がっていけばいろんな広がり出てくる」というのが話し合いの中での私が持った感想です。

いたりませんが、これからのこの町がよりいろいろと人が語り合えるような、にぎわいのあるまちになればと願っております。本日はどうもお疲れ様でした。

事務局

委員長、ありがとうございました。また、ご参加いただいた委員の皆様ありがとうございました。

さて、栗東市では、今年度から重層的支援推進事業が本格的に始まり、ひきこもりなど制度の狭間の課題と言われる困りごとやいきづらさを抱える人、複雑化・複合化した課題を抱える世帯に対応するため、行政では相談支援機関の連携の強化をはじめ、包括的な支援体制づくりを進めています。

そして、例えば、ひきこもりの方が、自分のペースで過ごせる場所をつくることなど各福祉分野における既存の社会参加に向けた事業では対応できない者に対し、孤立を防ぎ、社会とのつながりを回復するためのきっかけをつくることもしています。

その中で、今回のグループワークの目的は、各委員様に身近にある居場所を提示して「こんな場所があるんだ」と気づき、新たに居場所として活用できる場所を発見していただくこと、この場所でできそうな取組、アイデアを考えていただくことにありました。今回のグループワークで出た取組み、アイデアを今後の展開にいかしていきたいと考えております。

そのことで、地域福祉計画の基本理念である「つながり支え合い だれもが 安心して暮らせるまちづくり」に向け住民の皆さんや関係機関の皆さんと一緒に話し合いを重ね、今後も、少しずつ取り組みをすすめていきたいと考えております。

来年度も、この委員会は開催していく予定ですので、ご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。以上をもちまして閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

以上